

## ・ごあいさつ・

中国東北部にかつて13年間だけ存在した幻の国「満州国」。ここに日本から約27万人の農業移民が渡って行きました。「満蒙開拓団」です。夢を抱いて渡った新天地でしたが、1945年8月9日、ソ連軍の侵攻で満州は戦場と化し、開拓団の人たちは広野を逃げ惑います。終戦後も祖国に帰ることができず、難民収容所では飢えと寒さで大勢亡くなりました。日中双方に多くの犠牲を出した「満蒙開拓」とはいったい何だったのか。私たちはこの歴史を風化させることなく後世に伝えるため、その拠点として記念館をつくりました。戦争に導かれていく道筋を学び、人々の体験に耳を傾け、平和な社会とは何かを皆さんと一緒に考えていきたいと思ひます。

## ・用語について・

当館の展示や資料では「満州(国)」「満蒙開拓」、あるいは差別的とされる「満人」などの用語を使用している箇所があります。これは当時使っていたことばをそのまま使用することで、その時代や人々の認識を読み取り歴史を検証していくためであって、これらを美化したり正当化しようとするものではありません。

## ・開館までの経緯・

- 2006年 飯田日中友好協会の定期大会で記念館事業採択
- 2007年 建設資金寄付金集めに本格着手
- 2008年 阿智村より建設用地無償貸与の申し出をいただく
- 2009年 「山本慈昭記念館」事業と統合
- 2010年 一般社団法人としての法人格を取得
- 2012年 林野庁、長野県、南信州広域連合より建設補助金確定  
9月11日着工
- 2013年 4月25日開館
- 2019年 9月30日別館セミナー棟竣工

\*当館は入館料とご寄付により民間団体が運営する施設です。

## ご利用案内・施設概要

- 開館時間** 午前9時30分～午後4時30分(入館は午後4時まで)
- 休館日** 毎週火曜日(祝祭日の場合にはその翌日)  
第2・4水曜日、年末年始等
- 入館料** 一般 500円(団体400円)  
小中高生 300円(団体200円) ※団体20名以上
- 駐車場** 大型バス3台 普通車30台

### アクセス

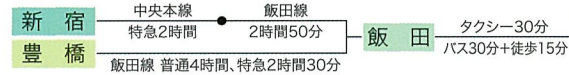
#### ●自家用車を利用



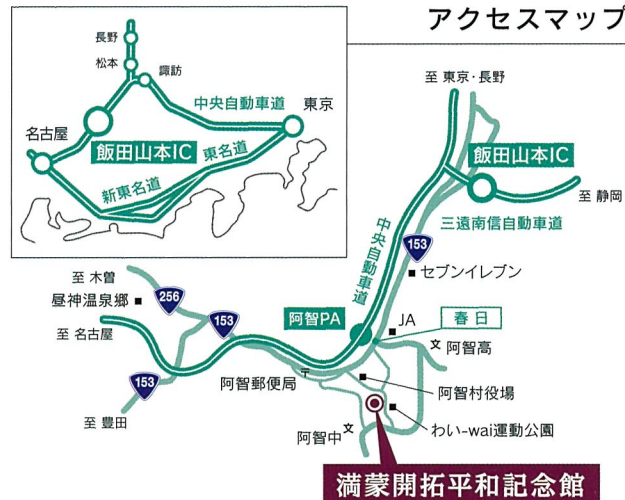
#### ●高速バスを利用



#### ●鉄道を利用



満蒙開拓平和記念館



一般社団法人  
**満蒙開拓平和記念館**

〒395-0303 長野県下伊那郡阿智村駒場711番地10

TEL・FAX 0265-43-5580

<http://www.manmoukinenkan.com>

## 満蒙開拓平和記念館

今、伝えなければならない満蒙開拓の歴史

— 平和への願い —

## 前事不忘、後事之師

— 前事を忘れず、後事の教訓とする —



# 館内のご案内

戦前から戦後に至る満蒙開拓の歴史をコーナーごとにテーマを設け紹介し、時系列に辿っていきます。戦争や「満州」を知らない世代も写真や資料、映像であの時代、彼の地にいざなう工夫をしています。満蒙開拓体験者による証言は「読む(文章)」「観る(映像)」という二つの表現をしました。また、「平和な未来へ」のコーナーにはメッセージボードがあり来館者の感想を掲示しています。観る。聞く。読む。触れる。参加する。平和への願いを皆さんと共有したいと思います。



## 1 序章 時代を知るタイムトンネル

現代から戦前・戦中へ、日本から「満州」へといざなうタイムトンネル。左壁面では日本が戦争へ向かう足どりを年表と戦時中ポスターで辿り、右壁面では満蒙開拓が国策として推進され人々が満州へ渡っていく背景を資料などで伝えます。



## 2 大陸へ 映像で見る満州

2.5×5メートルの壁に映し出される赤い夕陽と広大な大地。満州の風景と開拓団の人々の様子を当時の映像と写真で紹介します。



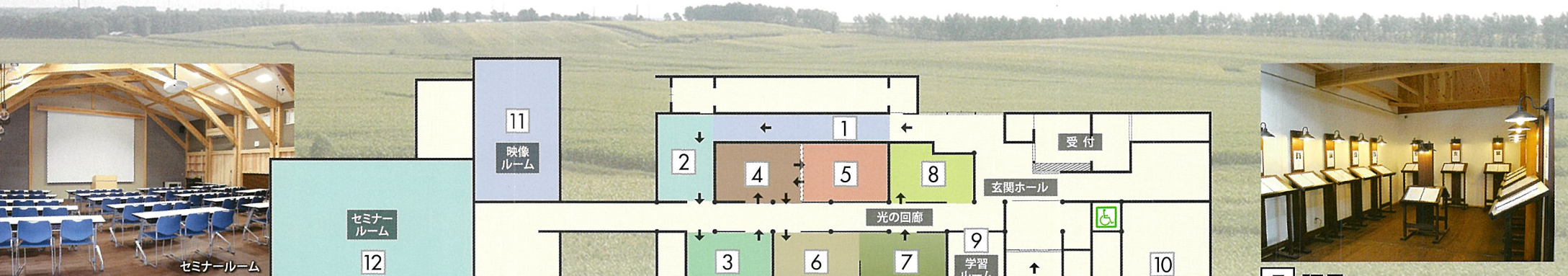
## 3 新天地満州 希望の大地

各開拓団が入植した地点を表示した「満州開拓民入植図」を大きくパネルにしました。青少年義勇軍のコーナーには、学校から送り出される様子や内原訓練所の写真、教本、満州から送られたハガキなど寄贈資料が並んでいます。



## 4 敗戦と逃避行 絶望の彷徨

凄惨を極めた逃避行や収容所生活などを、絵画を交えて伝えます。回転型地図テーブルのソ連侵攻ルートや関東軍の戦略地図などが、開拓団が置かれた状況をものがたっています。



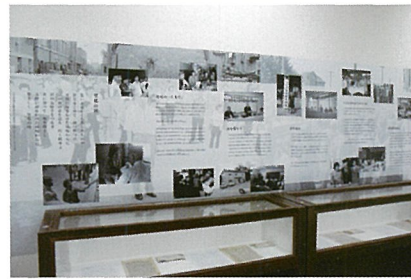
## 6 引揚げ・再出発 失意の帰還

終戦の翌年、1946年から始まるコロ島からの引揚げの様子を、飯山達雄氏の写真15枚で紹介しています。そのほか、シベリア抑留体験のスケッチや国内での再入植など、戦後も続いた苦労を知ることができます。



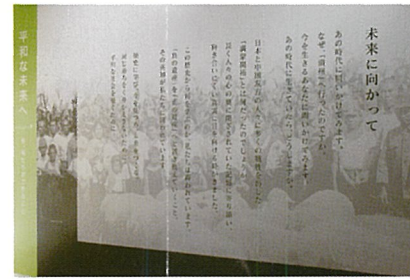
## 7 望郷 山本慈昭と残留孤児

中国残留孤児の帰国支援事業を国に先駆けて推進した、地元阿智村長岳寺の元住職、故山本慈昭の活動の記録を紹介したコーナーです。残留孤児からの手紙を展示しています。今日まで続く満蒙開拓の歴史、戦争が人々の人生に残した傷跡を見つめます。



## 8 平和な未来へ 今、私たちができること

満蒙開拓体験者からのビデオメッセージが流れる中、展示の感想を書き添えていただくコーナーです。感想用紙が貼られたボードは来館者が創り出す「もう一つの展示」であり、思いを共鳴する場となっています。



## 9 学習ルーム

調べ物をしたり貴重な資料の閲覧ができます。

## 10 図書ルーム (2020年2月～)

「満州」に関わる様々な本を読めるスペースです。

## 11 映像ルーム

体験者の証言映像をレポート上映しています。

## 12 セミナールーム

120席収容可能。講話やワークショップ、映像視聴など多目的に使えるホールです。